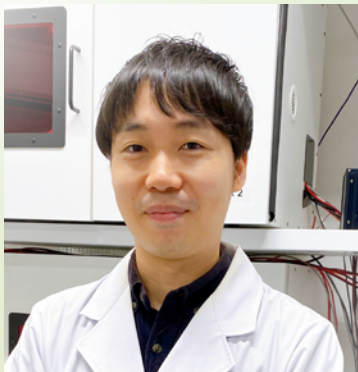


心理学セミナーシリーズ

2021 / 12 / 17 (金) 16:30 ~ 18:00

33 号館 3F 第 1 会議室 + オンライン開催 (zoom)

音の学習と選好のメカニズム



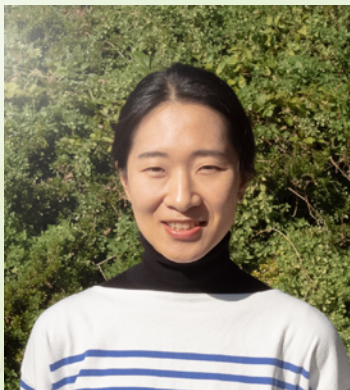
山口 健治

神前研究室所属
学振特別研究員 PD
文学学院院非常勤講師

側坐核ドーパミン D1/D2 細胞の

学習行動における機能的役割

現在まで、多くの精神疾患にはドーパミンやセロトニンなどのモノアミン、シナプス関連遺伝子、前頭葉や大脳辺縁系などの脳領域が関与していることが分かってきています。これらはすべて、環境に柔軟に適応するための学習に関係しています。そこで私が所属したグループでは、古典的条件づけのパラダイムと光遺伝学やファイバー光測定などの手法を組み合わせ、ドーパミン神経細胞の強い投射を受ける側坐核において、ドーパミンの一過性活動変化が条件づけ学習とシナプス可塑性をどのように制御しているのかを研究してきました。本発表では、近年報告した側坐核ドーパミン D1/D2 細胞それぞれの学習における役割について紹介したいと思います。



藤井 朋子

東京大学 総合文化研究科
特任研究員

動物は複雑な音声をどのように認識するか？

—小鳥の歌の研究から

さまざまな動物が日ごろから音声でコミュニケーションを行っています。そのなかには、ヒトの言語のように複雑な系列の形をとる音声もあります。外界の事物や発声者の状態など多様な情報を含む音声を、私たちはどのように処理しているのでしょうか。小鳥（鳴禽類）の求愛歌に関する行動学・神経科学的研究が、この問いに答えるヒントを与えてくれるかもしれません。本発表では、小鳥における歌の認知・選好をテーマとして、過去の知見や研究手法の紹介も交えつつ、幼いころの聴覚経験に依存した選好の発達に関する研究についてお話ししたいと思います。

終了後には懇親会も予定していますので、お気軽にご参加ください。
聴講を希望される方は、事前に右の QR コードから参加登録をお願いします。

後日、参加用リンクをお送りします。

問い合わせ先：田中 雅史
masashitanaka@waseda.jp

▼参加登録▼

